

衣食住生活
研究・活動レポート
第 8 号
目 次

「活動報告」

—衣生活研究部門—

1. 生活科学研究会活動報告	3
2. 「ECO+ものづくりプロジェクト」の活動報告	5
3. 第10回 伝統文化裁縫コンテスト	7
4. 第12回 岐阜マザーズコレクション・コンテスト参加	9
5. 第32回 ア・ミューズ岐阜 ファッションショー参加	11

—食生活研究部門—

6. 「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」活動報告 — 健康・医療分野、子ども食育分野、 商品開発分野、ミニ懷石分野、菜園分野 —	17
7. 第15回 高校生朝ごはんコンテスト	24
8. オープンキャンパスにおける小麦・卵・乳を含まない弁当の提供	26

—住生活研究部門—

9. 各務原市空き家リノベーション事業2022	31
10. 実習棟リノベーション工事 2022	33
11. 第14回わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト2022	35
12. ドローン研修会	37

衣 生 活 研 究 部 門

〔活動報告〕

生活科学研究会活動報告	3
三輪 聖子・長浜 小春	
「ECO+ものづくりプロジェクト」の活動報告	5
齋藤 益美・長浜 小春	
第10回 伝統文化裁縫コンテスト	7
長浜 小春・齋藤 益美	
野口 雅子・三輪 聖子	
児玉 愛子・藤木 節子	
第12回 岐阜マザーズコレクション・コンテスト参加	9
藤木 節子・齋藤 益美	
第32回 ア・ミューズ岐阜 ファッションショー参加	11
藤木 節子・長浜 小春	

生活科学研究会活動報告

三輪聖子・長浜小春

◆目的

生活科学研究会では、毎年研究テーマを決め、研究会委員を中心に生活に役立つ研究活動を行っている。前期に研究テーマに沿って文献調査や実験・実習を実施する。その成果を10月の「栗まつり」や「さぎ草祭」において研究発表し、学生や地域の方々、保護者などに幅広く研究結果を還元している。また、定例講演会として、様々な分野の方に講演していただき学ぶ機会も作っている。

◆活動方法

【研究活動】2022年7月～12月

研究会は、毎週1回昼休みを活用し活動した。2022年度の研究テーマは「持続可能な社会を考えるSDGsから“家庭用生ゴミの分解と活用法”」とした。調理実習や家庭での自炊から排出される野菜の皮等の生ゴミを、環境に配慮した方穂で処理するためにはどうしたらよいかを考案する目的で実施した。方法は、①事前調査として「食品ロスに関するアンケート」を実施②岐阜市が推奨するダンボールコンポストを利用した生ゴミ分解の観察③廃棄食材(野菜の皮等)を活用したレシピの考案とした。

【定例講演会】2022年12月10日(土) 10:30～12:30

定例講演会は「人生のロールモデルーライフコースと家庭科教員ー」と題して、卒業生3名を招き、家庭科教員への道のりと家庭科教員として働くことについてロールモデルとなるような講演を実施した。

【送別会】2023年2月9日

4年生の卒業研究発表後に送別会を開催した。

【生活科学研究会誌】

第42号を発行した。

◆活動結果・考察

【研究活動】

①事前調査「食品ロスに関するアンケート」結果

・食べられるのに捨ててしまう食材の部分は、「野菜や果物の皮、葉、茎、根、ヘタ(特に大根と人参、キャベツ、キノコ、ジャガイモ、リンゴ)、魚の皮、肉の皮、骨、内臓など」があがっていた。

・捨ててしまう食材を利用して新しいレシピや生活に活用できるものを作りたいと考える人は88.6%いた。

・家庭から排出される生ゴミの処理は、88%の人が「可燃ごみにする」と回答した。

・生ゴミを減らすには「食べ残しをしない」75%、「消費・賞味期限内に食べる」43.2%、「多く作り過ぎない」40.9%と回答した。

・家庭から排出される生ゴミの多さに悩んでいるが、どうしていいかわからない。解決策を知りたい。と

いう意見があった。そのためダンボールコンポスト活用を実施した。

②ダンボールコンポスト 7月5日～9月30日

コンポストの観察を行った結果、1か月で分解することはおろか、観察開始から3か月近く経過した今でも完全に分解が出来ていないという結果になった。原因は(1)入れるものを細かく碎いていなかったこと(2)卵の殻やキャベツの芯、玉ねぎの皮等分解しにくい物を入れていたこと(3)土日祝、夏季休暇等をはさんでしまいかき混ぜる回数が少なかったこと(4)乾燥しすぎてしまったことなどが考察された。



写真 1 コンポスト

③廃棄食材(野菜の皮等)を活用したレシピ

「スイカの皮の浅漬け」「オレンジピール」「野菜の皮かき揚げ」「もずくと野菜の皮のポン酢和え」「そば茶の茶殻で作るお茶漬けの素」「ベジブロス」「野菜とブロッコリー(茎)のポタージュ」「ミートボールスパゲティ」を考案した。



写真 2 スイカの皮の浅漬け



写真 3 野菜とブロッコリー(茎)のポタージュ



写真 4 ミートボールスパゲティ

【定例講演会】

「人生のロールモデルーライフコースと家庭科教員ー」をテーマに1人30分程度で講演をいただき、その後、活発な質疑応答が行われた。

講演者: 石田 吉子 先生 名古屋市立中央高校

掛下 佳美 先生 浜松開誠館中学校・高等学校

神山 留美子 先生 岐阜市立中学校(岐阜教育事務所
学校職員課人事係 課長補佐)



写真 5 石田吉子 先生

【送別会】

4年生にプレゼントを渡し、送別会を行なった。

【生活科学研究会誌】

2023年5月にB5版 35ページの会誌第42号を発行した。



写真 6 送別会

「ECO+ものづくりプロジェクト」の活動報告

齋藤 益美・長浜 小春

◆活動の目的

平成26年度から生活科学専攻の全学生で「ECO+ものづくりプロジェクト」の活動を行っている。環境に配慮した生活のためのものづくりをコンセプトに、グループ活動、地域の方々と接するイベント参加やワークショップの企画・運営を行っている。学生が幅広い年齢層の人々や地域社会と関わることでできる機会を増やし、コミュニケーション力を高めるだけでなく、グループでの商品企画・製作、イベントの企画・運営を通して仲間と協力し成し遂げる経験ができる機会となっている。学生一人ひとりの生活者として、また社会人としての資質向上を目的として活動している。

◆活動方法

2～4年生の運営委員(3名)が年間の目標・計画をたて、それに基づき1～4年生の縦割りで構成されたグループがリーダーを中心に活動している。運営委員会、リーダー会を開催し、活動の計画と運営を周知し、グループ作品の開発・検討、グループの問題点、イベント開催等の話し合いを行っている。各グループがグループリーダーを中心に、テーマと目標を持って活動できることをめざしている。リーダーは商品企画の中心となり、また、メンバーの特性を理解し、個々が成長できるようアドバイスをして製作の効率を上げていく必要がある。

製作した商品はマルシェなどに出品し販売している。加えてものづくり体験のワークショップ、親子のものづくり体験などを企画し、地域の方々と関わり、環境に配慮した生活とものづくりの楽しさを伝えている。

毎年環境に配慮した生活の提案ができる展示も行っている。



かさマルシェ出店の様子

◆活動報告・考察

令和5年度は3月から運営委員会・リーダー会を行い、活動目標や計画を検討した。4月には新入生歓迎会を開催しグループ活動をスタートさせた。コロナ禍で中止になっていたイベントも徐々に再開されており、ワークショップや展示、クラフト展や手づくり市への出店の機会も増えた。5月には笠松みなと公園で開催された『かさマルシェ vol.5』、10月には山県市で開催された栗祭り、大学のさぎ草祭(岐阜女子大学)、11月には太郎丸吉祥寺の乳弁天手作り市に出店することができ、グループの商品の販売状況や、購入者からの多くの意見から、グループの活動と商品企画の見直しにつなげることができている。ワークショップでは幅広い年齢層の人に手作りの楽しさを伝え、環境に配慮した身近なアイデアを伝えられるように内容を毎回検討している。それらの情報は SNS やブログを利用

し毎週の活動とともに発信している。

10月には岐阜市立図書館分館にて『小さな端切れでできるもの ～ヨーヨーキルトをたくさんつなげて～』のテーマで展示を行った。身近な問題に目を向け、調査・研究と作品製作に取り組んだ。被服実習で出た端切れ、処分される着物や古着などの小さな布を使って、全員でのヨーヨーキルトを作り、それを運営委員がつなぎ合わせて服や小物を製作し展示した。ヨーヨーキルトを使った小物作りのワークショップも開催した。



展示「小さな端切れでできるもの
～ヨーヨーキルトをたくさんつなげて」

1年間の様々な活動を通して、学生が大学の授業だけでは得られない時間を楽しみ、自分の作ったものを買ってもらえるうれしさや責任を感じ、ものの価値について考えることができる活動にしたい。ワークショップでは自分のできることを人に伝えることの難しさと楽しさを知り、技能の習得とコミュニケーション力の向上につながることを期待している。

2・3月には3年生企画のワークショップ「親子の手づくり企画」を計画している。今年度もお母さん、お父さん、子どもたちに、楽しみながら環境問題を考え、もの作りの楽しさも伝えたい。

ECO+ものづくりプロジェクトを通して、1年生は早い段階から先輩たちと関わりを持ち、学生生活にスムーズに馴染んでいく様子が見えてくる。同学年でなじめない学生も上級生がうまく関わり、徐々にその学生の良さを引き出してくれることも多く、孤立や退学の減少につながっている。

令和5年度活動状況および予定

3-4月	運営委員・リーダー決定 運営委員会 リーダー会
4月	1年生歓迎会 1年生の技術指導(ECOフラワー・裏付きトートバッグ)
4月	グループ製作商品の検討会
4～2月	グループ活動(商品企画・製作)
5月	かさマルシェ出店(販売・ワークショップ)
6～10月	岐阜市立図書館分館展示のための調査・研究・製作・準備
10-11月	岐阜市立図書館分館にて展示 「小さな端切れでできるもの ～ヨーヨーキルトをたくさんつなげて～」
10-11月	岐阜市立図書館分館講座(ワークショップ) 「ものづくりの楽しさを体験しましょう！」
10月	山県市ふるさと栗まつり出店(販売)
10月	さぎ草祭(大学祭)出店(販売・ワークショップ)
11月	吉祥寺乳井天手づくり市出店(販売・子ども遊び広場)
11月	金華橋ストリートパークラインイベント出店(ワークショップ)
2-3月	親子の手づくりワークショップ開催予定
3月	運営・リーダー反省会

第 10 回 伝統文化裁縫コンテスト

長浜小春、齋藤益美、野口雅子、三輪聖子
児玉愛子、藤木節子

◆目的

平成 25 年度より中学・高校生を対象に、伝統文化裁縫コンテストを実施している。今回で 10 回目を迎えることになる。中学・高校生が日本の伝統文化に触れ、布を用いて作品を製作することを通して、製作に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、物づくりの楽しさを実感し、生活を豊かにするために活用する能力創造力を育てることをねらいとしてコンテストを実施する。

◆活動方法

テーマを「未来につながる大切なもの」とし、『今の豊かでしあわせな暮らしは、先人たちが創りあげてきました。私たちは今を知り、豊かな心を育み、未来に夢をもち、過去から未来へ、人から人へつなげていきましょう。そのために今をどのように生きるとよいでしょうか。「伝統文化」「SDGs」「もったいない」・・・未来に夢をつなぐために。』と呼びかけた。衣装を製作する衣服作品部門と、トートバッグを製作するアイデア作品部門とに分かれており、中高校生が興味を持ち応募することを期待している。

今回は第10回を記念し、本学学生も衣服作品部門において参加することとなった。また、衣服作品部門入選者の作品を着装し大学祭にてファッションショーを行うとともに、令和 4 年 10 月 3 日～10 月 11 日まで岐阜市役所市民交流スペースにて展示を行った。

◆活動結果・考察

衣服作品部門の一次審査応募作品数は 38 点（内 13 点は本学学生作品）、アイデア作品部門は 39 点であった。

○衣服作品部門の優秀作品

最優秀賞



高井 心優

岐阜県立岐阜城北高等学校

優 秀 賞



河口 愛紗

多治見西高等学校



東海 慶音

岐阜県立大垣桜高等学校

○アイデア作品部門の優秀作品

最優秀賞



河合 柚羽
岐阜県立岐阜城北高等学校

優秀賞



埜本 実桜
岐阜県立大垣桜高等学校



樋渡 涼羽
岐阜県立大垣桜高等学校



岐阜市役所市民交流スペース展示



大学祭でのファッションショー

第12回 岐阜マザーズコレクション・コンテスト参加

藤木節子 齋藤益美

◆目的

第12回岐阜マザーズコレクション・コンテスト(一般社団法人岐阜ファッション産業連合会主催)に四回目の挑戦をした。「ファッションデザイン画実習」の成果発表の機会であるとともに、ファッションデザイン部学生を中心にファッション分野に興味・関心を持ち、デザインコンテストへのチャレンジ意欲のある学生を対象としている。

◆活動方法

産学コラボレーションプロジェクト(岐阜ファッション産業ブランド確立支援事業)の一つである岐阜マザーズコレクション・コンテストは、岐阜アパレルメーカーと未来のデザイナーを目指す学生とのコンテスト形式の企画である。『お母さんにきてもらいたい「素敵な服」をコンセプト』にお洒落で着易く斬新な未発表オリジナルデザインの公募コンテストである。

今回の募集テーマは「Blue&Yellow」～お母さんに感謝を込めて～ ロシアによるウクライナ侵攻を受け、ウクライナカラーの青と黄色がテーマである。生活科学専攻の13名がデザイン画を応募し、一次審査で2名のデザイン画が入選し、作品製作に挑んだ。参加校は本学、岐阜市立女子短期大学、大垣桜高等学校、平野学園清凌高等学校、ヴィジョンネクスト服飾デザイン専門学校、コロンビアファッションカレッジ、飯原服飾専門学校の7校である。

◆活動結果・考察

デザイン画による一次審査応募作品の展示の様子は写真1の通りである。赤の◇マークが一次審査通過12点である。2年加藤凜香さん、3年橋爪愛未さんの2点が入選することができた。



写真1 岐阜女子大学応募デザイン画 ・デザイン画表示プレート ・一次審査・デザイン画展示全体



写真 2 一次審査通過本学の 2 作品

左から 橋爪愛未さん、加藤凜香さん

令和 4 年 12 月 4 日(日)岐阜市長住町の岐阜ファッション産業連合会事務所にて審査会が開かれ 3 年橋爪愛未さんのドレスが見事二番目の「岐阜県繊維協会会長賞」を受賞した。昨年の銅賞に続き連続入賞を果たした。受賞後、「今回の作品製作では、デザイン画通りのドレスを作れるようにと試行錯誤しました。授業以外で洋服を作る機会は少なく、ドレス自体作ることも初めてだったので、とても挑戦的で、ワクワクしまし



写真 3 銀賞岐阜県繊維協会会長賞受賞作品

た。全体のバランスを確認しながら、プリーツの大きさや丈を調節し縫い進めたため、とても時間がかかりました。しかし時間をかけた分、納得のいく仕上がりのものでしたので、2 年連続の受賞と共に、嬉しく思っています。」とコメントした。

デザイン画審査通過し作品製作に至る過程は構成、パターンメイキング、素材選択と大変時間がかかるだけにその経験は、学生である今だからこそ挑戦できるともいえる。向上心を持って挑む、諦めない姿勢はかけがえのないものである。継続させたい。



写真 4.5 展示会場の全体の様子

第 32 回 ア・ミューズ岐阜 ファッションショー参加

藤木節子 長浜小春

◆目的

「輝く未来のデザイナー！ 岐阜アパレルはそんな学生を応援しています！ スチューデントプレビューショー 若さとセンスが溢れるファッションショーの第 2 部として」をキャッチフレーズとして、ア・ミューズ岐阜では、新たな産学プロジェクトの芽になればと岐阜アパレルとファッション専科のある学校とのファッション連携としてのショーの企画がある。学生が作品を製作し、ステージ発表を通しての新たなステップを図ることを目的としている。

本専攻では洋裁・和裁の技能の向上をめざしており、学修成果発表の機会と捉えて「第 32 回ア・ミューズ岐阜」(一般社団法人 岐阜ファッション産業連合会主催 岐阜県、岐阜市後援)「スチューデント・プレビューショー」に四回目の参加をした。

◆活動方法

「第 32 回ア・ミューズ岐阜」が令和年 5 年 3 月 6 日～8 日の間JR岐阜駅前の繊維問屋街などで開催された。令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で中止、2 年ぶりの開催となった令和 3 年度に続いての開催となり、会場には限定された観客を入れてのファッションショー行くと同時にオンライン配信するというハイブリッド方式で岐阜アパレルの魅力を発信することとなった。

4 年目のコロナ禍の催事になるが、この時代にこそマッチした販売促進に重点を置き、岐阜アパレルの活性化と商業活動に貢献できる催事を通して、日本を元気にするような企画として進められた。積極的な参加をという依頼を受けて挑戦することとした。スチューデントプレビューショーへの参加希望者を募り、1 年から 4 年の 17 名の学生が参加することになった。

◆活動結果・考察

1. 令和 5 年 3 月 6 日(月)会場はじゅうろくプラザ 2F 特設ステージ(岐阜市文化産業交流センター 岐阜市橋本町1-10-11)9 時会場入り、リハーサル後ランスルー(通しリハ)15 時、本番は 17 時スタート、オープニング(古田岐阜県知事、柴橋岐阜市長等出演)パート 1、パート 2 での学生出演、全体合同のフィナーレの流れで進んだ。ファッションショーは、YouTube チャンネル「ギフまるけ」で映像配信された。
2. 今回、岐阜女子大学では「自分らしさ」をテーマに、日常とともにある「洋服」好きな服、似合う服、着たい服を見つけて、色・デザイン・布地で自分らしさを引き出す魅力ある作品を見て頂きたいとの趣旨で作品製作を行った。

四パート構成とし、パート1は「伝統と平和」とし、本学主催の「第 10 回伝統文化裁縫コンテスト」特別賞を受賞した 3 作品とした。 →写真 1
2 年の檜坂美葉「夜祭」、石神莉子の「鶴匠」、東優音の「ウクライナ、平和と公正を」の 3 人。



パート2は「Serge de N^mes」ニール地方の綾織物、誰もが持っているデニムを少しおしゃれなワンピースに人生初モデル
1年佐藤陽菜、玉井菜々美、2年木村恵理の3人が仕上げた。

→ 写真2 パート2



パート3は「cocktail」カクテル、それぞれの個性が混ざり合うというコンセプト。2年伊藤里奈、加藤凜香、3年伊藤結菜製作、モデル渡邊陽子の3作品。

パート4は「Glitter」グリッターはキラキラ輝く魅了するという意味があり、自分らしく自分の煌めきを引き出すドレスに仕上げた。パート1で出演した2年の3人に3年柘植優菜、白戸美沙希、寺西歩果、橋爪愛未、古市彩花の8人で構成した。



写真3 パート3の3人（スポットライトを浴びて）

写真4 ポーズを決めて！



写真5 パート4の一部
ステージセンターにて
ポージング決まり！

今回のスチューデントファッションショーは、9時半から場当たり・リハーサル、13時からマザーズコレクションリハーサル、14時からランスルー、本番は17時から行われた。

岐阜市立女子短期大学、飯原服装専門学校、コロンビア・ファッションカレッジ、清凌高等学校、岐阜女子大学の7校が出場した。最終の片づけが19時に終了するまで緊張の連続であった。



写真 6 スチューデントプレビューショー出演者+マザーズショー出演全員

写真7 マザーズ作品着装



ー考察ー

ランウェイを歩きたい、けれど……という思いを打ち破るには、やはり一人ではない仲間とともにが重要なキーワードだと感ずる。自己満足にならないように学習の成果が発表できる機会はチャンスと捉え、さらに継続して参加できるよう応援し続けたい。

ショー参加を終えて、初参加の1年生から2回の経験者それぞれの感想を以下に紹介する。

「初参加で今回のショーに向けて、自分が作りたいものを考えて、絵に起こしてみても形にしていこうという工程がいかに大変なことかということを実感した。こうしたいと追求すればするほど時間を忘れて服を作ることに没頭する日々を送っていた。最初は不安もあったが、完成し安心したと同時にやり切ったという達成感を味わうことができた。」

「スチューデントプレビューショーに参加することで、他校の衣装や、モデルの方を生で見ることができ、とてもいい刺激をもらうことができた。次に活かしたいと思い、更なる技術の向上を目指して、日々の大学生活を頑張ろうという意欲が湧いてきた。ファッションショーを岐阜女子大学として参加させて頂けることへの感謝の気持ちを忘れないようにと、これからも良い演出ができるよう一生懸命努力したい。」

「二度目の参加ということで、一番感じたことは、製作した衣装のレベルが上がったという事である。1年生のころは、授業での応用が精一杯だったが、2年生では裏地の付け方も学び、自分の着たい衣装を作ることができ、技術の向上を感じることができたのが何よりも嬉しかった。また、自分の着たい服を形にする楽しさを改めて感じた。」

「昨年度も参加したため、2回目のファッションショーでした。2年生の時に参加し、自分で製作したものを着てランウェイを歩くという貴重な経験ができたことを誇りに思っていた。そのため、3年生の春休みには教採の対策講座もあったが、参加しようと決めた。今回は観客がおられ少し緊張したが、自信を持って歩くことが出来た。2回も参加出来て素敵な思い出になった。家庭科教員として働くにあたって、この経験を活かしたい。」

食 生 活 研 究 部 門

〔活動報告〕

「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」活動報告

—健康・医療分野、子ども食育分野、

商品開発分野、ミニ懷石分野、菜園分野—17

平田 みさ・林 真陽

澤田かすみ・土田奈津美

大西 真央・板屋 智子

和田 玲子・野村 裕也

藤田 昌子・臼井 宗一

第15回 高校生朝ごはんコンテスト24

大場 君枝・岩山 裕美

中村 日南・瀬上 佳世

村山 香里・板屋 智子

片桐 幸子・藤田 昌子

水野 幸子

オープンキャンパスにおける小麦・卵・乳を含まない弁当の提供26

大場 君枝・尾島 萌泉

加納 沙南・酒井 杏実

関口 佳澄・野口 紗英

丸山 悠那・三木 春風

山田 里緒・横幕 瞳果

吉野 杏未

「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」活動報告

—健康・医療分野、子ども食育分野、商品開発分野、ミニ懷石分野、菜園分野—

平田みさ、林真陽、澤田かすみ、土田奈津美、大西真央
板屋智子、和田玲子、野村裕也、藤田昌子、白井宗一

◆目的

2021 年度から学生主導で「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」に取り組んでいる。EAT は、E(enjoy)、A(act for health)、T(trend, traditional)の略語であり、食を楽しみ、伝統的な食文化や新しい情報を取り入れ、健康増進のための活動をしていこうという願いを込めている。地域・食・健康の架け橋となる管理栄養士を目指すことをねらいとした活動である。

「健康・医療分野」「子ども食育分野」「商品開発分野」「ミニ懷石分野」「菜園分野」の 5 分野に分かれ、1～3 年までの学生が将来の進路を踏まえ、興味のある分野を選択し活動を行った。

◆活動方法

健康・医療分野では、「プラスワンの運動と食事で健康を目指そう」をテーマとして活動した。さぎ草祭 10 月 14 日、15 日の当日は、【運動習慣についてのパネル発表】【ながら運動の体験】【野菜を使った料理の実演】の 3 つのブースを設置し、実際に運動を体験し、レンジで簡単調理のできる料理の実演を行った。来場者の方々に、日々の運動習慣・食事について見直すきっかけとなる発表を目指した。

子ども食育分野では、子どもたちに楽しく食の知識を身につけてもらうことを目標に活動した。さぎ草祭当日は、食育のミニ授業を小学生以上と中学生以上の 2 グループ、体験コーナーは、「絵合わせ、折り紙、収穫祭、どこにできるかな？」の 4 グループに分けて行った。授業で学んだ食に関する知識や年代に合わせた指導方法などを活かして、食育の授業や体験コーナーを企画した。

商品開発分野では、岐阜県産のごぼうを使用した「ごぼうスコーン」と、大学で収穫した栗を使用した「くりスコーン」の商品を考案した。試作と試食会を何度も繰り返して岐阜女子大学オリジナルのスコーンに仕上げ、さぎ草祭で販売した。

ミニ懷石分野では、「岐阜の恵み～救荒作物で体の中からキレイに～」をテーマに活動した。テーマには、近隣にある食材をふんだんに使用して地域発信をする、救荒作物や山野草を用いて、レジスタントスターチや食物繊維の摂取量を増やし、腸内環境の改善、吸収遅延、アレルギー症状の緩和を促すというねらいを込めた。お客様に「岐阜」らしさを感じていただくために、筍や八重桜、梅、イタドリなど 4 月から学内や地域で採れる食材を自分たちで採取、保存して、メニューを考え、試作・試食会を繰り返し、さぎ草祭当日の本番に臨んだ。

菜園分野では、大学近隣の遊休農地で野菜を育て、収穫、簡易な加工、販売の活動に取り組んだ。とうもろこし、トマト、たまねぎ、さつまいも、じゃがいもの栽培に挑戦し、爆裂種のとうもろこしを使った「ポップコーン」、収穫したさつまいもを加工した「干し芋風しっとりさつまいも」をさぎ草祭で販売した。

《活動結果・考察》

【運動習慣についてのパネル発表】では、世代ごとにパネルを作成し、ながら運動の提案を行った。また、学生が実際に猫背改善のながら運動を 3 か月行った結果についても発表した。【ながら運動の体験】は、毎日続けられるながら運動を考え、来場者の方々に体験していただいた。体験者からは、「簡単なストレッチだからテレビをみながらできそう」「運動すると思ったより気持ちがよかった」などの感想をいただいた。【野菜を使った料理の実演】は、野菜の摂取を増やすことを目的に、野菜を使ったプラスワンの料理について実演を通して提案した。かぼちゃのシチュー・ナスの煮びたし・サバのみぞれ煮を実演し、一回5分程度、2 日間で全 9 回行った。1 日目は各料理を 2 回ずつ、全 6 回行ったが、他のイベントとの時間が重なったため午後からの客足が減ってしまった。そのことを踏まえて 2 日目は一度に 3 種類を行い、時間も他と重ならないように工夫したことで、1 日目の約 2 倍の方々に来ていただくことができた。来場者へのアンケート結果から、「電子レンジを使ったレシピを参考にさせてもらおうと思った」「勉強になり日頃の食事を考えることができた」など嬉しい声を頂くことができたのと同時に「実際に試食ができるといいと思う」「実演の際手元が見えるようにして欲しい」などの声もあった。

来年度の活動では、今年度の反省を生かし、実演後の試食を行ったり、提案した料理を自宅で作ってみた感想などを集めたりできる機会を作れるようにし、より良い活動にしたい。



図 1 ながら運動を行う様子



図 2 料理の実演を行う様子

子ども食育分野では、「楽しく学ぼう！ミニ授業」「体験コーナー」を行い、2 日間で延べ 500 人の小さい子どもから大人の方までの幅広い年代の方々に参加してもらうことができた。

体験を通して、食に興味を持ち、来ていただいた方に「知らなかった！」「なるほど！」という気持ちになってもらうには、どのような内容にすれば良いかを考え活動した。

ミニ授業では、対象者を小学生以上と中学生以上の 2 つに分けて行った。小学生以上のミニ授業ではクイズや寸劇を取り入れ、地産地消について楽しくかつ詳しく学べる工夫をした。さらに中学生以上では、事前に化学的実験を行い実験から分かったことや岐阜県庁の農政課の方に伺った話を参考にまとめた内容にして、どちらの授業も楽しく学んでいただけるように授業展開を工夫した。

体験コーナーでは、幼児から小学生を対象として、「絵合わせ」「折り紙」「収穫祭」「どこにできるかな？」という内容で、ゲームを通して食について興味を持ってもらえる活動にした。多くの子どもたちが、元気いっぱいに楽しそうに参加してくれている姿を見ることができた。

ミニ授業、体験コーナー参加者からは、「野菜の断面の特徴を知ることが出来た！」「フェルトの野菜が可愛い！」「新しいことを知ることができた」という感想があった。また、ミニ授業を担当した学生からは、「これまで練習してきた成果を発揮できて良かった」、体験コーナーを担当した学生からは、「準備したものが年齢問わず笑顔で楽しんでもらえてうれしかった」との声があった。

子ども食育分野の活動を通して、普段は関わることでできない子どもたちと直接関わることができ、とても勉強になった。子どもだけでなく、大人の方に食について指導する楽しさ、難しさを経験することもできた。参加して下さった方々はもちろん、学生も楽しそうに子どもたちと関わる姿があり、私たちも大変嬉しく思った。また、多くの課題や反省点を見つけることができ、今後の学生生活の中で改善していきたいと思った。参加者のみなさんから頂いたお言葉を大切にして、今回の反省点を改善し更に楽しんでいただけるようなイベントを開催できるように、来年度へ繋げたいと思った。



図 3 子ども食育分野：小学生以上と中学生以上を対象としたミニ授業の様子



図 4 子ども食育分野：絵合わせと折り紙の体験コーナーの様子

商品開発分野では、10月15日(日)にごぼうスコーンとくりスコーンを販売した。商品は、従来のスコーンのイメージを取り入れつつ、独自のアレンジを加えたスコーンを考案した。その特徴として、ごぼうスコーンは、岐阜県産のごぼうを使用しており、ごぼう特有の風味が楽しめるよう生のごぼうをペーストにして生地混ぜ込み、甘さを控えた商品にした。くりスコーンは、学内で収穫された栗を甘露煮にして使用しており、甘露煮をペーストにしたものと甘露煮の粒を、また、渋皮を粉末にしたものを生地混ぜ込み、贅沢な商品にした。さらに、スコーン特有の膨らみを出すため、試作を繰り返した。

販売当日は、前日から続いた雨の影響で足元が悪い状態ではあったが、1部、2部ともに大勢の方に並んで頂き、売れ行きは好調であった。そして、購入者の方にアンケートに回答していただいたり、直接聞き取り調査をしたりすることで、商品の評価を得た。良好な評価が多くある中で、改善点もあり、今後は、これらの評価をもとに、11月に行われる外部のイベントに向けて検討を進めていく。



図5 作業工程の確認の様子



図6 スコーンの焼成



図7 さぎ草祭販売の様子



図8 ごぼうスコーン・くりスコーン

ミニ懐石分野では例年より 100 食多い 300 食を提供した。メニューを表 1 に示す。試食会から 1 月ほどでのメニュー変更もあり、美味しくできるか、時間に間に合うか、完売できるか不安だったが、多くの方に来ていただくことができ、「美味しかった」「見た目が綺麗」というお声を頂いた。工程の見直しや食材準備で前日も遅くまで作業をして本番を迎えたため、提供時間に間に合わなかったり、調味がうまくいかないまま提供したりとハプニングはあったが、1 日目を無事に終えることができた。2 日目は 1 日目の反省を活かし、スムーズに作業することができた。

料理の提供だけでなく、大学で収穫した食材や懐石についてのパネルを作成して展示し、山法師シロップの試飲やどくだみ茶の試飲、出汁ガラの佃煮の試食なども行った。あまり食べたことがない「赤だつの酢炒り」、「イタダリのきんぴら」、「梅味噌」のレシピも配布した。今後は 11 月に行われるイベントにむけた救荒作物を使用したお弁当販売の準備を行うこととしている。反省点も多くあったが、自ら栽培することや周辺の食材の有効活用を学ぶ機会にもなった。今後も食料不足、食材費高騰が続いてくと思われることから来年度にも繋げていきたい。



図 9 提供したミニ 懐石料理



図 10 盛り付けの様子



図 11 作成したパネル



図 12 食事の様子

表 1.提供したメニュー

分類	メニュー	大学及び近隣の食材	注目した成分など
食前酒	ブルーベリー入り梅ソーダ	ブルーベリー	アントシアニン
		梅	クエン酸
前菜	イタドリのきんぴら	イタドリ	ポリフェノール 食物繊維
	こも豆腐の梅味噌のせ	白みそ	発酵食品
		梅	クエン酸
	出汁トマトときび団子の串物	さといも	水溶性食物繊維
	赤だつの酢の物	赤だつ	アントシアニン 食物繊維
		糸寒天	水溶性食物繊維
煮物	炊き合わせ		
	さつまいもの牛肉巻	すいおう	葉柄の食用のために 品種改良された球根 水分が少なく甘味も 少ない
焼き物	鮎の塩焼き	鮎	
	花蓮根	蓮根	食物繊維
		ブルーベリー	アントシアニン
揚げ物	四種天ぷら	すいおうの葉	食物繊維
		いちじく	ビタミン C 食物繊維 ポリフェノール
		八重桜	
蒸し物	蓮根餅の朴葉蒸し	蓮根	食物繊維
		朴葉	
ご飯	栗ご飯	栗	食物繊維
	胡瓜の浅漬け		
汁物	お吸い物	筍	食物繊維
		すいおうのつる	食物繊維
デザート	芋きんとん	山法師	ポリフェノール

上記のほか、発酵食品の利用や食物繊維、ポリフェノールの摂取に努め、吸収遅延、腸内環境改善(不要物の排泄促進)に心がけた。

菜園分野は、今年度から新しく始まった分野である。大学近隣の遊休農地を借り野菜を育て、収穫、簡易な加工、販売の活動に取り組んできた。菜園は、みんなで相談の上「おひさまファーム」と名付け、手作りの看板を設置した。

とうもろこし(スイートコーン、爆裂種)、トマト、たまねぎ、さつまいも、じゃがいもの栽培に挑戦した。予期せぬトラブルや天気の影響でうまくいかないことも多々あったが、先生方のサポートや分野全体で協力して乗り越えてきた。その過程で農作物を育てることの大変さを実感した。

さぎ草祭では、育てた爆裂種のとうもろこしを使った「ポップコーン」、若干数ですが収穫した「じゃがいも」「さつまいも」、さつまいもを加工した「干し芋風しっとりさつまいも」を販売した。

全く農業経験がない私たちが集まっての作業であった。この体験を通じて分かったことは、とにかく水やりが大変なこと。農業は鳥や虫、あるいは病原菌との戦いであるということ(スイートコーンはすべてカラスの餌になってしまった)。夏は除草作業の連続であるということ。さらに、採れた農産物を保存することがとても難しいことなどであった。ただし、自分たちで育てた野菜は格別においしいという幸せな経験もした。

今年度は、多くの失敗をしたが、学ぶことも多かったと考えている。アンケートでは、この活動に参加したほとんどの学生が、来年度もやりたいと答えてくれた。



図 13「おひさまファーム」看板 図 14 ジャガイモの芽かき 図 15 トマト苗の植え付け



図 16 トマトの雨除け設置 図 17 完熟大玉トマトの収穫 図 18 はじけた！ポップコーン

◆謝辞

本活動は、2023 年度健康栄養学科食物栄養学総合演習の一環として実施したものであり、本学学生と教職員のご協力のもと実施することができました。この場をお借りし、皆様に感謝申し上げます。

第 15回 高校生朝ごはんコンテスト

大場君枝、岩山裕美、中村日南、瀬上佳世、村山香里
板屋智子、片桐幸子、藤田昌子、水野幸子

◆目的

「朝ごはん」の大切さを広く高校生の皆さんに理解してもらい、朝食作りへの取り組みを通じて欠食を減らすことを目的に高校生朝ごはんコンテストを開催している。本年度は「祖父母に教わる！地元野菜を残らず食べる朝ごはん」をテーマとした。“残らず食べる”には、「余す所なく食す、残菜を無くす」という願いがあり、食料自給率が低い日本の現状を考えるきっかけとしてもらうねらいがあった。

◆活動方法

朝ごはんメニューは、テーマに添って考えた朝食メニューであることとし、以下の条件を満たす作品を募集した。「地元野菜を残らず食べる工夫がある料理が 1 品以上ある」、「お米を使う」、「地元野菜を使う」、全国から「1 食あたり 500 円程度、30 分以内で作ることができる」メニューについて、指定の応募用紙で料理写真、レシピを応募してもらった。7 月 18 日(火)～9 月 11 日(火)まで作品を募集した。そして、9 月 23 日(祝)に学外の審査員 2 名および学内教員 3 名による書類審査を行い、入賞 12 点と入選 50 点を選定した。

◆活動結果・考察

岐阜県内 16 校と岐阜県外 18 校(愛知、青森、鹿児島、静岡、栃木、富山、三重)よりご応募があった。また、個人応募が 12 点あり、応募総数は 490 点であった。入賞者のうち、書類審査で得票数の多かった 6 作品の応募者には 10 月 14 日(土)開催の実技審査に参加してもらい、最優秀賞 1 点、健康栄養賞 1 点、アイデア朝ごはん賞 2 点、優秀賞 2 点を決定した。

書類審査から実技審査までの期間はわずかであったが、30 分間で 2 食分の朝食が作れるよう、練習が重ねられており、短時間で手際よく丁寧に料理を仕上げられていた。野菜を使い切る工夫として、食材をまるごと使い切るメニューが多くみられた。審査員の方々は、味覚、見た目、調理の手軽さ、食材の使い方、栄養、アイデア、テーマの合致性(野菜を残らず食べる工夫がある)について、1 作品ずつ丁寧に審査していた。審査結果は、表 1 のように各賞が決定した。

表彰式の審査委員長講評では、チーズや加工品など朝食に使いやすい食材には塩分も多いことから、食材に含まれる塩分を考慮して調味料を控えめにするにより美味しく仕上がるとアドバイスがあった。

今後も、「地域食材」、「お米」を使った、地産地消を意識したテーマでコンテストを実施することで、自ずと SDGs にも貢献できるようなコンテストを目指すとともに、高校生の皆さんに朝食について関心を持っていただくきっかけとなるようなコンテストを継続していきたい。

表 1. 実技審査結果

最優秀賞	健康栄養賞
平田 遙さん（静岡県立駿河総合高校 2 年） 「野菜の器 まるごと美味しい朝ごはん」	岡 寛大さん（学校法人石井学園 城南高校 2 年） 「ムダなし！朝ごはん」
	
アイデア朝ごはん賞	アイデア朝ごはん賞
伊藤 千沙希さん（岐阜県立岐阜高校 1 年） 「愛をふんわり閉じ込めて・・・ 幸せの黄色いスープとともに」	藤原 しおりさん（常葉大学附属菊川高校 1 年） 「うめえら！掛川の野菜たっぷり朝ごはん」
	
優秀賞	優秀賞
永井 綾さん（中津川市立阿木高校 4 年） 「大根を使いきった地元野菜朝ごはん」	杉本 優姫乃さん（静岡県立田方農業高校 1 年） 「エネルギーたっぷりの朝ごはん」
	

オープンキャンパスにおける小麦・卵・乳を含まない弁当の提供

大場君枝、尾島萌泉、加納沙南、酒井杏実、関口佳澄、野口紗英
丸山悠那、三木春風、山田里緒、横幕瞳果、吉野杏未

◆目的

食物アレルギー児は皆と同じ学校給食を食べる機会が少ない。そこで、小麦、卵、乳を含まない弁当レシピを考案し、岐阜女子大学でのオープンキャンパスで提供を行うことで、大量調理に向くレシピ提案を目指した。本年度は、主食の米粉パンについて、ヨーグルト状の生地が特徴の米粉パンの発酵条件の違いがパンの硬さに及ぼす影響を調べた。さらに、野菜の「にんじん」「トマト」「なす」について嫌われる要因を軽減を目指したレシピを考案した。また、安価で食物繊維が多く、大量に廃棄され利用が少ない生おからを乾燥して作成した「おからパン粉」を使った焼き物メニューを検討した。

◆活動方法

4月23日には、米粉パンをピンク色に着色した2色パンを含む「小麦・卵・乳を含まない春野菜&米粉パン」ランチを100食提供した。6月11日には、にんじんご飯、蒸し鶏のトマトソースかけ、なすの揚げ浸し、きらきらゼリー・トマトコンポート添え含む「苦手な野菜を美味しく!!野菜もりもりランチ」を提供した。7月17日は生おからを乾燥して作成したおからパン粉を使用した鰯のカレーおからパン粉焼きを含む「小麦・卵・乳を含まない食物繊維たっぷりヘルシーランチ」を提供した。8月6日には、程よい硬さになるよう発酵条件を調整した米粉パンを含む「小麦・卵・乳を含まない夏野菜&米粉パンランチ」を提供した。

◆活動結果・考察

4月23日は、春野菜を使った米粉パンランチを提供した。昨年度の研究結果より、粉重量に対して20%コーンスターチを添加した米粉パンを提供した。春らしく、白とピンク2色の米粉パンを作成し、お弁当を見栄え良く仕上げる事ができた。また、米粉パンの硬さは生地の発酵具合に左右されると気づいたため、8月に向けて発酵条件の違いによるパンの硬さ測定、官能評価を行うこととした。その結果を受けて、8月のオープンキャンパスでは最も好まれた高さの米粉パンになるよう調整して焼いたパンを提供した。しかし、きめの粗いパンとなり、成功とは言えなかった。4月は米粉を冷蔵保存していたが、8月は冷蔵保存しなかったことが影響したと考えた。イーストの発酵には、生地の温度が影響する。生地の温度には加える湯の温度だけでなく、粉の温度の影響も大きいからだ。今後はさらに、材料の温度管理も徹底し、ふんわりとしたきめの細かい美味しい米粉パンを提供したい。

6月11日は、子供に嫌われやすい野菜について嫌われる要因を軽減したレシピを検討した。人参は、細かく切り「にんじんご飯」にすることで匂いを軽減した。また、なすは、塩をまぶしてしばらく置き、水分をふき取り渋みを少なくし、油で揚げ、旨味と強いツナと砂糖醤油で揚げ浸しにした。「嫌いだったが、美味しく食べられた」という声があり、好評だった。

7月17日は、生おからをオーブンで乾燥させたおからパン粉をつかった「鰯のカレーおからパン粉焼き」と卵を使わない「千草焼き風」を提供した。おからパン粉は、普通のパン粉より含油率が高ことから、スチコンを使った焼きメニューとした。また、千草焼き風は豆腐の種類や水切り具合を工夫し、卵の食感に近くなるよう仕上げた。「卵が入っていないと知り驚いた」という意見もあった。

毎回、少量の試作と大量調理では違いがあり、思うように仕上がらないことが多々ある。弁当提供を行う中でP(計画)D(実行)C(評価)A(改善)サイクルを回しながら、より美味しく感動してもらえるランチを提供していきたい。

表 1.小麦・卵・乳を含まないランチ出来上がり写真

4月23日 「小麦・卵・乳を含まない 春の米粉パンランチ」	6月11日 「苦手な野菜も美味しく!! 野菜もりもりランチ」
	
8月6日 「小麦・卵・乳を含まない 夏野菜&米粉パンランチ」	7月17日 「小麦・卵・乳を含まない 食物繊維たっぷりヘルシーランチ」
	

住 生 活 研 究 部 門

〔活動報告〕

各務原市空き家リノベーション事業202231

黒見 敏丈・大崎友記子

森田 実沙

実習棟リノベーション工事 202233

大崎友記子・黒見 敏丈

森田 実沙

第14回わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト202235

大崎友記子・富士 覇王

黒見 敏丈・森田 実沙

ドローン研修会37

森田 実沙・富士 覇王

大崎友記子・黒見 敏丈

各務原市空き家リノベーション事業 2022

黒見 敏丈・大崎 友記子・森田 実沙

◆目的

本事業は、深刻化する空き家の増加と人口減少に対応するため、若い世代の移住・定住を促進するために、産官学金の四者の連携協定を結び空き家のリノベーションを進めようとするものである。

そのため、本学には建築・インテリアを学ぶ女子大生の若い自由な発想に基づく空き家のリノベーションデザインの提案を求められたものであり、昨年度に引き続き7年目の事業である。

◆活動方法

今年度は、昨年度同様にインテリアデザイン論・実習Ⅰ・Ⅱ（3年生の授業科目）の1つの課題として3年生4名と4年生1名の計5名で、市より提示されたモデル空き家3軒のリノベーションデザインに取り組むことができた。

◆活動概要・考察

(1)対象空き家物件の現地調査:2022年7月13日(水)

市から5月に提供を受けたモデル空き家物件(3件)の基本図面と写真を踏まえ、リノベーションデザインのプラン作成のための現地調査を行った。教員2名と3・4年生5名が3軒を巡り、周辺の環境や建物の現状を把握するとともに、細かな部分の採寸等を行った。



図1 現地調査の様子1



図2 現地調査の様子2

(2)リノベーションのコンセプトの明確化とデザインの具体化:2022年9月～11月

インテリアデザイン論・実習Ⅱの授業において、夏休み中に各自が考えてきたリノベーションのコンセプト等を明確化し、そのコンセプトに基づいてリノベーションデザインの具体化を図り、3D-CADソフトや手描きのスケッチパースによりプレゼンテーションシートにまとめていった。

(3)成果の報告会:2022 年 11 月 24 日(木) 13:30～15:30

今年度もコロナ禍ではあったが、昨年度に引き続き本学での対面での報告会を開催できた。

各務原市からは建築指導課から課長以下 4 名と広報課から 1 名、各務原市空き家リノベーション事業推進会議会員の民間事業者 2 名の方々に出席いただき、本学住居学専攻からは教員 3 名とプレゼンを行う 3 年生 4 名、4 年生 1 名が出席した。また、zoom でつないだ別教室にて 1・2 年生もオンライン参加した。

学生 5 名が順番に 5 つのデザイン案のプレゼンテーションを行った。今年度も、住宅→住宅のリノベーションだけでなく住宅を子ども食堂やカレー店、コーヒースタンドなど用途変更をとまうリノベーション提案が主となった。学生のこだわりと思いのこもったプレゼンテーションに市の方々も感激され、その内容に対しても概ね好評であった。

学生にとっては学内だけでのプレゼント異なり、緊張感も感じられたが、しっかりと取り組んでいた。ただし、提案の実現性等については市の担当者の方からも厳しい意見もあり、来年度以降の課題となった。昨年度に引き続きこのような機会を提供していただいた各務原市には深く感謝申し上げる次第である。



図 3 報告会の様子 1



図 4 報告会の様子 2

実習棟リノベーション工事 2022

大崎 友記子・黒見 敏丈・森田 実沙

◆目的

特別プロジェクト実習では、平成 16 年度以降、実際の建物の企画設計から建設、及び大学施設のリフォーム提案、改修工事等を 1～3 年生が協働で実施するプロジェクトを展開してきている。本プロジェクトもその一環として実施しているものである。

◆活動経緯

(1)昨年度までの活動

令和 2 年度でリノベーションの完成を目指していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、人数を制限して作業を実施したことで完成には至らず、引き続き作業に取り組むこととなった。

令和 3 年 4 月～5 月：フローリング張りと巾木取り付け、屋根塗装をおこなった。

令和 3 年 6 月：流し台の制作と北・東面の高圧洗浄後、外壁塗装(4 面)をおこなった。

令和 3 年 7 月：既存バーベキューコンロ台の撤去、外構整備など、西側ウッドデッキ工事の準備作業と、ウッドデッキの独立基礎づくりをおこなった。

令和 3 年 9 月～12 月末：東石づくり、束、垂木、梁、ウッドデッキ材の加工と防腐材の塗装をおこない、床組み、屋根下地の作業を進め、波板の屋根の取り付けをおこなった。

令和 4 年 1 月：屋根が完成し、ウッドデッキ材も 1/3 まで張ることができた。

◆活動概要・考察

令和 4 年度で外構工事までの完成を目指す、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、学年ごとに人数を制限し、作業を実施した。

(1)工事作業

4 月 21 日(木)～5 月 26 日(木) ウッドデッキの制作、及び塗装作業をおこなった。

4 月 28 日(木) 雨どいの水を流す側溝の掃除、及び勾配調整をおこなった。

5 月 12 日(木)～5 月 26 日(木) 室内の巾木取り付け(一部)、流し台の穴埋め、網戸の取り付けなど室内の雑工事。

6 月 9 日(木)～6 月 30 日(木) 外構工事、竹藪から竹を切り出し、半割加工、単管支柱に胴縁を取り付け、半割の竹垣制作をおこなった。

6 月 30 日(木) 室内の片付け、清掃後フローリング床塗装をおこなった。

10 月 20 日(木)～11 月 17 日(木) 外構工事、前期からの継続で竹垣制作をおこなった。

12 月 1 日(木)～12 月 15 日(木) 作業小屋の解体、荷物の片付け、外壁・屋根のトタンはがし、骨組みの釘抜きをして、骨組み解体。丸太は運搬できる大きさに切断。床板をはがし、根太の切断もおこなった。廃棄物の分別と清掃をおこなった。

1 月 19 日(木) 実習棟で使用するベンチ 4 脚を制作し、今年度の作業は終了した。



図 1 ウッドデッキ作業の様子



図 2 竹垣制作の様子



図 3 作業小屋の解体作業の様子



図 4 ベンチ制作の様子

(2) 考察

今年度もコロナ禍のため学年ごとでの作業となり、他学年との協同作業の時間を取ることがほとんどできなかった。そのため、他学年とのコミュニケーションを図る機会として達成されなかった部分はあったと思われる。しかし、同じ作業を週ごとに交代でおこなうことで、他学年の作業の進捗度や作業内容を確認し、後日作業をする人への配慮を考える学生も一部出てきた。次の人が取り組みやすいように考えることは、特別プロジェクト実習での学修目的である、自主性、協調性、実行力、マナー等を養うことに通じる。大工さんや職人さんの仕事に対する準備や道具の取り扱い、後片づけにいたる振舞などから、一緒に働く人への思いやりや気配りなどにも目を向けることができる一面が見られたことは、大きな成果であり、今後も指導を続けていきたい。今年度完成したデッキ部分では、お昼を食べる学生もあり、つくる楽しさと使う喜びが体験できたのではないかなと思う。

次年度は、外構工事として物置小屋跡地の整備、物置小屋の建設、植栽等を計画している。次年度中には外構工事も完成予定のため、昨年開催できなかった実習棟の設計、建設に関わった卒業生を招待して、交流を深める機会を設けたい。

第14回わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト 2022

大崎 友記子・富士 霸王・黒見 敏丈・森田 実沙

◆目的

建築及びインテリア関係への進路を選択する動機づけとなることを期待すると共に、大学と高等学校等が連携し多様な学習機会を提供する一つの活動の場として『わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト』を開催している。このコンテストは 14 回目となり、次の活動方法に示すとおり技術・デザイン部門とアイデア・デザイン部門の 2 部門で実施した。

◆活動方法

今年度はコロナ禍での就業の形や生活様式の変化などにより、住宅内での家族との過ごし方も多様化する中、家族共用のスペースであるリビング、ダイニングでの過ごし方に着目し、「LDK を中心とした住まいのリフォーム」をテーマとして、コンテストを開催した。「技術・デザイン部門」と「アイデア・デザイン部門」の 2 部門でリフォームの提案を募集し、各部門の優秀賞、奨励賞を選出した。11 月 6 日(日)に賞状と副賞の交付を行い、入賞作品は、岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻 HP に掲載すると共に、大学内にて展示を行なった。

(1) 応募期間 2022 年 8 月 22(月)～9 月 18 日(日)

(2) 募集内容 LDK(リビング・ダイニング・キッチン)全体、あるいは LDK の一部を対象として選び、現況の様子あるいはリフォーム前(写真あるいは図)と、あなたの考えるリフォーム後の構想図(平面図<寸法記入不要>)・立面図・透視図など)にて表現

(3) 応募資格 高校生・短期大学生

(4) 作品応募規定

A:技術・デザイン部門

提題された住まい(本学 HP 掲載)を対象にして、家族が共に過ごす時間が多い LDK 全体、あるいは LDK の一部に重点を置き、住まい全体のリフォーム提案を募集。

B:アイデア・デザイン部門

LDK の楽しい発想や斬新な図面表現、身近な実践例などを評価します。

(リフォーム前の状態を図面や写真等で示してください。)

(5)審査員

今田太一郎 一般社団法人 日本建築学会東海支部 岐阜支所長

独立行政法人 国立高等専門学校機構 岐阜工業高等専門学校 建築学科 准教授

松井 博幸 公益社団法人 岐阜県建築士会 岐阜支部長

松井設計室 代表・一級建築士

大崎友記子 岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻 教授・専攻主任・一級建築士

富士 霸王 同上 教授・岐阜女子大学学生部長・家政学部長

一級建築士・岐阜県建築審査会会長

黒見 敏文 岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻 教授

大学院生活科学研究科長・一級建築士

森田 実沙 同上 講師・一級建築士

◆活動概要・考察

今年度は、コロナ禍により自宅で過ごす事が圧倒的に多くなった中で、住まいにおける LDK の役割を考え、「LDK を中心に住まいのリフォーム」を提案する課題とし、コンテストを開催した。今年度も工業高校の参加校が多く、また半数近くが初参加の高校となり、住空間に対する意識や興味がより広がった結果ではないかと思われた。参加校も岐阜県はもちろん、宮崎県、新潟県、群馬県、静岡県などの高等学校から、技術・デザイン部門に 22 作品、アイデア・デザイン部門に 116 作品、合計 138 作品の応募があった。また岐阜県建築士会岐阜支所様より、本コンテストの趣旨にご賛同をいただき、今回も建築士会賞を選出し、技術・デザイン部門では、建築士会賞 1 点、優秀賞 2 点、奨励賞 5 点、アイデア・デザイン部門では、優秀賞 4 点、奨励賞 5 点の入賞作品、両部門を通して学校賞を 1 校選出した。

応募されたどの作品にも LDK として空間を提供するだけでなく、皆が自然と LDK へ集う仕掛けが工夫されており、地域との関係を住居に取り込もうと試みたもの、子どもの目線で住居を捉え直し、従来の住居を転換しようとするものなど、家族団らんとしての空間という以上に、これからの住まいの在り方を示唆する魅力的な提案が多く作品からなされていた。コロナ禍で私たちの生活は制限され、苦しい思いをしている人も多くいるが、その中でも家族や地域との関わり大切さ、制限されている中でも自由な想像力で空間を変えていくことができる事に気づき始めている新しい世代がいる。困難を乗り越えた後に待っているのは過去の生活に戻るのではなく、困難の中で生まれた新しい、心地の良い暮らしなのだということ、また、その暮らしを生み出していく若い力を伸ばす機会やその環境づくりの大切さを実感したコンテストとなった。



図 1 表彰風景



図 2 表彰式記念写真

ドローン研修会

森田 実沙・富士 霸王・大崎 友記子・黒見 敏丈

◆目的

本学では 2020 年に「岐阜女子大学ドローンカレッジ」を設置し、ドローン操縦資格を取得できる体制を整え、ドローンの特性を活かして、デジタルアーカイブや教育、住居（建築）、観光など大学での学びとの連携を行っている。建築（建設）業界においてもドローンが積極的に活用され始め、今や欠かせない存在になりつつある。建設技能労働者は高齢化などで減少し、人手不足となると予想されている。その中で、効率よく、安全に作業を進めていくための、ドローンによる最先端の技術を建築（建設）業界に取り入れていく取り組みは、今後さらに広がると考えられる。実際の建設現場において、現在ドローンがどのような役目を果たし、活用されているのかを学ぶため、清水建設（株）の協力を得て実施したものである。

◆活動方法（参加者：学生 1 年生から 3 年生、住居学専攻及びデジタルアーカイブ専攻教員）

実施日は令和 4 年 11 月 9 日（水）10:00～15:00。住居学専攻の 1 年生から 3 年生の学生と教員、デジタルアーカイブ専攻の教員が参加した。

◆活動概要

10 号館 10209 パソコン教室にてスライドで講義の後、西駐車場にてドローンのデモ飛行を行った。

10:00～ドローンの概要説明、活用例の説明

11:00～ドローンの自動飛行設定・自動空撮（10 号館廻りを撮影）

12:00～ドローンから画像データを取り出し、自動合成及び昼食

13:30～自動合成が完了後、配置図の画像データを確認

◆考察

実際の建設現場でどのように使われているのか写真や動画を見ることができ、学生にとっては建設業界でドローン活用するメリットや意義が分かったと思う。また、その場で本学の敷地をデモ飛行させ、ドローンの画像から配置図を作成し、より実践的な講習となった。さらに、清水建設（株）の女性社員



図 1 デモ飛行の様子



図 2 画像処理した 10 号館

の方がドローンの画像処理を行っており、女性の方の活躍も知ることができ、今後の進路の参考にもなった。このような機会を提供していただいた清水建設（株）には深く感謝申し上げる次第である。

岐阜女子大学 衣食住生活研究センター 研究・活動レポート
第 8 号

発行年月日	令和 6 年 1 月 31 日 発行
発 行 者	岐阜女子大学 〒501-2592 岐阜市太郎丸 80 番地 TEL058-229-2211
印 刷	ヨツハシ株式会社 〒501-1136 岐阜市黒野南 1 丁目 90 番地 TEL058-293-1010